

# 渡辺 巖太郎 市政通信 号外版

町田市議会議員（新人）

渡辺げんたろう活動報告

玉川中央幼稚園  
町田市立第五小  
町田市立南大谷中  
都立町田高校

日本大学法学部法律学科卒  
新光証券（現みずほ証券）勤務  
保険代理店勤務

渡辺げんたろう プロフィール



- ・町田市消防団第一分団第五部 部長
- ・エイサー「町田琉」 二代目会長
- ・町田消防少年団 指導員
- ・神輿会「幸神睦」会員
- 建設常任委員会委員
- 町田市青少年問題協議会委員
- 町田市庁舎及び庁舎移転に関する調査特別委員
- 三多摩上下水及び道路建設促進協議会委員
- 災害対策委員会委員

早いもので、町田市議会議員となって2年が経とうとしています。

私は学生時代から17年間、消防団活動に力を注いできました。阪神淡路大震災では個人的に救助活動にも携わった経験から、今後30年間に70%の高い確率で発生するとされている首都直下型の大地震は、皆様にとって最大の脅威になると感じていました。

町田市は、周囲に横浜市や川崎市、アメリカ陸軍総合補給廠などが隣接しているのに、県境や行政規模の違いで、災害時提携を結んでいないという現実がありました。我々住民にとって災害時は、県境も人口規模も関係ありません。必要なのは、迅速・的確な災害対応が実施されることのみです。

## 不可能と言われて

私は、町田の安全を高めるにはまず隣接地との提携をと考え、多方面に相談してきました。

しかし、東京都や国は「町田市とアメリカ軍との単独提携は不可能であり、それは外務省とペンタゴンの仕事である。いっかいの市議会議員は口を出すな。」と言わんばかりの態度でした。

各方面で「不可能」を連発され、少々気落ちしましたが、俄然ファイトが湧いてきました。

それから連日、パスポートを握りしめ、アメリカ陸軍補給廠や海軍厚木基地に通いました。

## 災害時応援協定の締結にむけて奔走

そのうちに、アメリカ陸軍・海軍には、想像を超える多大なる物資が保管されている事や、実はアメリカ軍も「国籍や立場に関係なく、同じ地面に住んでいるものとして、何か地域貢献をしなくては。」と考えている事を知りました。

そこで地域貢献の1つとして、町田市との災害時提携を提案したところ、紆余曲折を経て、東日本大震災よりも前の2011年2月24日、アメリカ海軍厚木基地と、災害時応援協定を締結する事が出来ました。

## 締結後の議会での反応

2011年の3月議会では、ある一部から「災害時の応急任務は行政の役割であり、軍隊を入れるなど言語道断！協定を白紙撤回せよ！」との意見も出ました。しかし私は、災害現場の実態を知っています。「災害現場では、目の前にある惨劇から人々を助けるだけであり、そこには政治的イデオロギーなどは存在しない！」と強く発言しました。

## 東日本大震災後にあったこと

そんな議論を行っている中、2011年3月11日14時26分、東日本大震災が occurred.

町田市も大きく揺れ、行政としても災害時対応が求められました。当日15時過ぎには、町田市役所にアメリカ海軍司令から「災害時応援協定に基づき、町田のためには何でもする。」との連絡が入ったと聞いています。

その後数日、震災による燃料不足から、市内各所でガソリンスタンドに給油の渋滞ができました。私は、ガソリンをアメリカ海軍厚木基地から分けてもらえないかと、基地まで行きました。先方には予想以上に快く了承して頂きましたが、町田市との調整の結果、被災地は東北であり今は町田より優先すべきだとの判断で、その日のうちにガソリンを大量に東北に送っていただきました。

迅速でスケールの大きい対応を目の当たりにし、町田市が災害時応援協定を締結したことの大きな意義を、改めて感じました。

## 横浜市との災害時応援協定の締結

震災後、横浜市議会議員の斉藤さんにお会いし、町田市がアメリカ海軍厚木基地と災害時応援協定を締結したことの有効性をご説明しました。その上で、町田市と横浜市との災害提携もまだ実現していないこと、横浜市は人口370万人の政令指定都市で、人口42万人の町田市との提携については相手にしてくれないことを訴え、一緒に災害提携を模索していただきました。

そして2011年11月11日、行政規模が違いすぎるため「不可能」と言われ続けていた横浜市と町田市との災害時相互応援協定が、締結されるにいたりました。

この2つの災害時応援協定により、次のように町田市の安全性が高まりました。

### アメリカ海軍厚木基地

- ・物資：食料、衣服、医薬品、寝台及び寝具の提供
  - ・施設：仮設住宅等の提供
  - ・人員：緊急医療処置、医務及び技術関係人員の提供
- なお、アメリカ海軍厚木基地は、町田市から最も近い、固定翼が離発着可能な空港施設です。これは物資、人員等の迅速な提供において非常に大きな意味をもちます。

### 横浜市

- ・物資：食料、飲料水及び生活必需品の提供
- 被災者の救出、医療、防疫及び施設の
- 応急復旧に必要な車輛等の資機材の提供
- ・施設：公共施設・避難所の相互使用
- 児童・生徒の一時受入れ
- 駅滞留者の一時保護

奔走の結果、無事に2つの災害時応援協定が実現されましたが、町田市の災害対応力を高めるためにはまだまだ課題が山積です。

今後は、やはり「不可能だ！」と言われている、川崎市と、アメリカ陸軍総合補給廠との災害時応援協定締結にむけ、交渉を進めて行こうと考えています。

**党利、党略、政局よりも、町田が良くなる事を第一義に!**と強く考え、活動しています。

## 注目しててください

- ◆ 町田市に、ガン粒子線治療（先進医療）を導入するため奔走中です。
- ◆ 電力自由化の制度を利用し、町田市の公共施設が使用する電気料金を大幅に下げました。
- ◆ 震災後、市内各所での放射能測定を要請し、現在実施中です。

～ あなたの声を町田市政に ～ 渡辺げんたろうは現場の声を町田市政に届けます。  
時間の都合上、ご返信できないこともありますが、いただいたご意見は全て拝読しております。

E-mail : gentaro\_watanabe@ybb.ne.jp TEL/FAX : 050-1458-8629

\*留守番電話には必ずお名前と電話番号を入れてください。

「まちだ新世紀・みんな」便り